

## ＜水稻の栽培ポイント＞

### 生育状況

6月中旬に移植した「とちぎの星」の出穂期は8月中旬頃（前年並からやや早い）となりました。気象庁の3か月予報（8月19日発表）によると、収穫時期を迎える10月の天気は数日周期で変わりますが平年に比べ晴れの日が少なく、気温は高く、降水量は平年並みまたは多いと予想されています。

本年産も出穂期以降、高温が続いているため、収穫時期が早まる可能性があります。また、秋雨が長い年は刈り遅れとなりやすく、刈り遅れによる胴割れ等の発生により品質・食味の低下が懸念されます。  
早めに刈取り準備を行い、適期に収穫できるようにしましょう。

### 1 刈取り準備

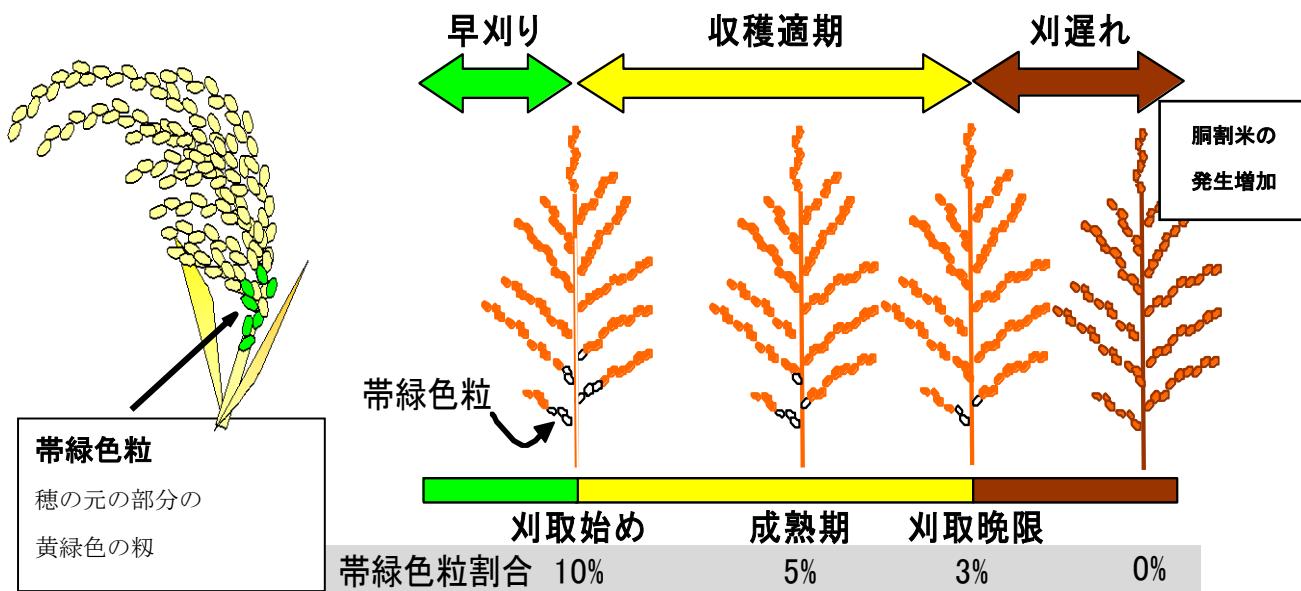
- コンバインや乾燥調製機等の清掃・整備を行い、異種穀粒・異品種の混入が無いようにしましょう。  
きちんと掃除したつもりでも、機械の中にはゴミが驚くほど残留しています。
- 圃場内の雑草は刈取り前に抜取り、雑草の種子が混入しないようにしましょう。  
ライスセンターでは雑草種子などの夾雑物の多いものについては荷受をお断りする場合があります。

### 2 適期収穫

収穫作業は、帯緑色粒率が10%になったら開始し、3%になるまでに終了しましょう。刈り遅れの無いよう注意してください。刈り遅れると胴割米の発生、色沢・品質・食味の低下、倒伏や穂切れによる減収を招きます。また早刈りは青米が多くなり減収となりますので注意しましょう。

#### 【刈取適期の判定方法】

- 平均的な生育をしている数か所で5~6本の穂をまとめて握ります。
- 穂全体に占める帯緑色粒の割合で判定します。10%から刈り始めましょう。



### 3 新規需要米について

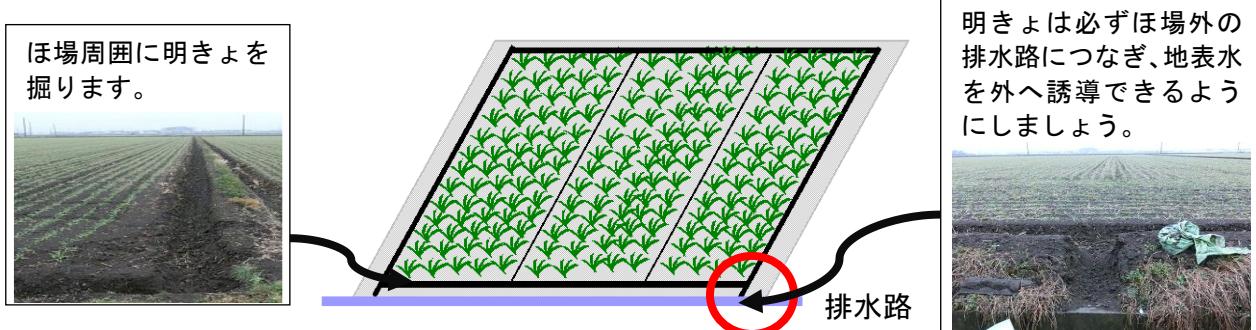
新規需要米についても、主食用米と同様に早めの刈取り準備、圃場内の雑草の抜取りを行いましょう。

## ＜麦類の栽培ポイント＞

麦は全栽培期間を通じて湿害を受けやすい作物です。湿害対策等の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

### 1 湿害対策の徹底

- (1) 播種直後は湿害に特に弱いので、稻刈り後の弾丸暗きよによる早期の排水性向上が有効です。スブルカルチ等を活用した心土破碎も圃場の排水性を良くします。
- (2) 地表水の排水のための明きよを設置します。明きよは必ず圃場外の排水路とつなげてください。



### 2 土づくりと施肥

- (1) 地力増進のため、良質な堆肥を 10a 当たり 1,000kg 程度施用しましょう。  
また、土壤診断を行い、診断結果に基づいて苦土炭カル、ようりん、OM-37 等を施用し土壤改善に努めましょう。
- (2) 令和7年産の成績に応じた施肥設計をしましょう。タンパク質含有率が低い場合は、肥効調節型肥料 (BB麦専用麦の香、BBとちぎ麦専用 500 等) を使用しましょう。

### 3 適期播種・種子消毒

【播種期間の目安】 ビール大麦・小麦：11月10日～25日

もち絹香：11月10日～15日

気象庁の季節予報（1か月、3か月、寒候期予報）を参考にして播種時期を決めましょう。

大麦斑葉病や小麦なまぐさ黒穂病などの種子伝染性病害予防のため、種子消毒を必ず実施しましょう。  
(例：ベンレートT水和剤 20、ベフラン液剤 25)

### 4 雑草防除

播種後に除草剤の全面土壤処理を行います。

令和7年9月16日時点での登録内容

雑草の種類	除草剤名	作物名	使用時期
一年生雑草	ボクサー	大麦	秋播栽培のは種後～麦2葉期 (雑草発生前～発生始期)
		小麦	秋播栽培のは種後～麦2葉期 (雑草発生前～発生始期)
			秋播栽培の麦2～4葉期 (雑草発生前～発生始期)
	リベレーターフロアブル	大麦	は種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)
		小麦	
	リベレーターG	大麦	は種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)
		小麦	
	ムギレンジャー乳剤	大麦	秋播栽培のは種後出芽前(雑草発生前)
一年生雑草(ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤	小麦	
		大麦	は種後出芽前～生育期(雑草発生前～雑草発生始期) 但し収穫45日前まで
		小麦	

※ボクサー・リベレーターフロアブル・リベレーターG・ムギレンジャー乳剤は、抵抗性スズメノテッポウに効果を発揮します。

※農薬を使用する際は、ラベルや袋に表示されている使用基準や使用上の注意事項を必ず確認してから使いましょう。

※注1) 希釀水量に注意してください。